

[月刊]

2009. JUN

平成21年6月10日

岩手よもっと  
元気になれ!

(財)いわて産業振興センター広報誌

Vol.

87

# 産業情報 いわて

CLOSEUP  
岩手力!

## 株式会社イーアールアイ

事業利用企業紹介



特集

平成20年度 サービス利用満足度調査結果

お知らせ

経済産業省委託 地域力連携拠点事業 / 下請かけこみ寺 6・7月開催予定  
平成21年度 地域見本市等出展費用助成事業

GLOSEUP

# 岩手力!

事業利用企業紹介

株式会社イーアールアイ



「これからは自主開発の比率を高めていきたい」という

さまざまな組込みソフト開発の  
実績を積み重ねて、  
目指すは自社ブランドの製品開発

私たちの身の回りにある家電製品や自動車の多くは、「組込みソフト」が搭載されている。より早く、簡単に、美しく…その進化はとどまるところを知らない。イーアールアイは、「組込みハード/ソフト」を通じて岩手から世界へ通じる事業を創出しようとしている。

## 技術者が足りない…

「組込みソフト業界は慢性的な人手不足です」

雇用が社会問題になっている中であって、組込みソフト業界は別世界らしい。

なぜなのか。

「たとえば、10年前と現在の組込み機器を比べると、自動車の場合、ハードウェアの複雑度は9倍になったのに対して、ソフトウェアは128倍に。デジタル家電では、ハードウェアの43倍に対して、ソフトウェアは900倍。携帯電話では、ハードも450倍に複雑化しているのに対し、ソフトウェアは、9500倍にもなっていると言われています。それだけソフトウェアの規模が大きくなっているし、難しくもなっています。しかも、商品サイクルは相変わらず早い。とても人材供給が追いつかないのです」

どのぐらい足りないのか。

日本全国でざっと9万人足りないと言われている。実はこの数字、ここ数年あまり変わっていない。全国の情報系教育機関から社会に出る人は毎年約1万人。その全部が業界に入ったとしても需要を満たすのに9年かかる計算だが、その間にまた需要が増えているために改善されず、9万人不足と言いつけられているのだ。

昨年来の世界的な不況で産業界は生産を縮小する傾向にあるが、開発現場は売

れない時だからこそと新製品、改良品に力を注ぐし、さらに次世代の製品開発にも向かう。そこでまた人材が要る。

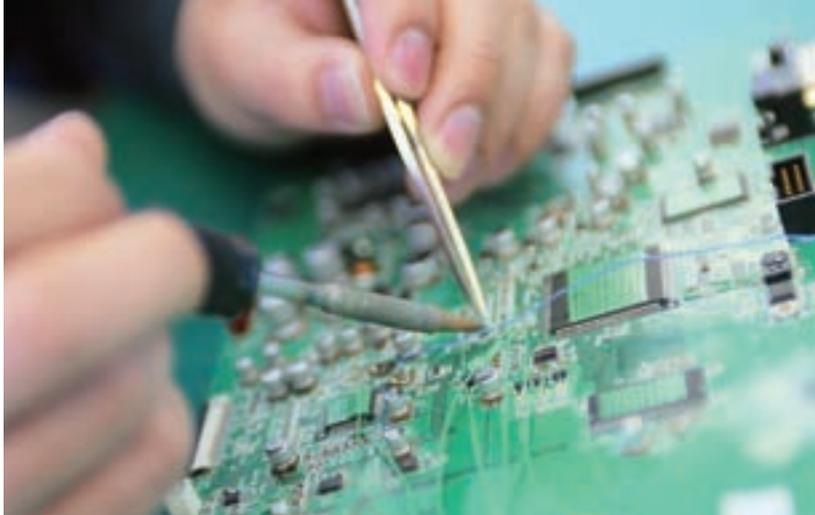
一方、こうした状況であれば会社が増えていいはずなのだが、あまり増えていない。それと言うのも、組込みソフトの開発は、なかなか難しい。機器に新しい働きをする機能を組み込むのだから、単にプログラミングの知識があればよいというわけではなく、それによって動く機器のことも、あるいは電気のことも、ある程度知っていなければならない。つまり、入り口から出口までがわかる能力。ある大学の先生の言葉を借りれば、「イマジネーション力のある頭脳」が求められる。そうした人材を集めて起業することはそうたやすいことではない。

## 「岩手で起業してよかった」

水野社長はアルプス電気OB。同じ会社で働いた仲間など10名で'03年に創業



安心、安全、省エネ、環境対応と、社会の要求に応じて組込みソフトの必要性は高まる一方



組み込みソフト開発には、ハード的な知識も求められる

した。「当社規模の組み込み系企業が多数ある京浜地区と、それほど多くはない岩手県内、地元岩手への就職を希望する工学系学生の採用においては大変メリットがあると感じています。また、組み込みソフト業界に対する県の施策や関係機関の支援など、追い風を感じました。岩手で起業してよかったと思っています」

リエゾンI、いわてインキュベーションファンドなどの資金面、いわて産業振興センターなどによる受発注取引斡旋、そして開発技術者の育成も各教育機関が熱心に行っている。このように産学官が目的を共有して業界を盛り立てようという形をとっているのは先進地の愛知、九州に次ぐのではないかとされるほどだ。

業界としても、産学官連携による「いわて組み込みシステムコンソーシアム」があり、東北全体の連携組織、とうほく組み込み産業クラスターがあって、国内の組み込みソフト開発拠点という形ができつつある。

こうした環境のもと、事業形態としては受託開発型から自主開発型にシフトして行く考えで、その先には自社ブランド商品の開発、生産・販売も視野にある。

社名・イーアールアイ=ERiは、Embedded Resource Integrationの頭文字。「組み込み資源を集大成（統合）できる会社」と、起業に際してすでに将来目指すところを社名に唱っていた。

「社員が創業時の4倍ほどになりました。平均年齢が35歳。ほとんど地元大学、工業系短大、工専卒業者です。次の世代が育つ場をつくるのが私の役割だと思っていますし、若い人たちには気持ちがワクワクするような仕事を体験させたいですね」

## フ・カ・ケ・ツをキーワードに

同社がいま取り組んでいるのは「次世代動画圧縮技術」の開発支援ツール。デジタル画像を高精度で圧縮・伸長する技術に関するもので、たとえばクルマの周りを360度死角なしでモニターで見ることができる装置に搭載される。経済産業省の制度資金を得て産学官で研究を進めており、2年後ぐらいには実用化したいという。

人々の飽くなき欲求に応じて組み込みソフトはさらに進化を続ける。

「どなたかの言葉ですが、フ・カ・ケ・ツ（不可欠）というキーワード。福祉、環境、健康、通信、これらの分野で、安心・安全・省エネ対応を技術的な側面から、自分たちの得意な力を発揮していければいいなと思っています」

デジタル歩数計の組み込みソフトも手がけた。歩数をカウントするだけでなく、脂肪燃焼量などもチェックでき、パソコンに繋いで健康管理データになる。一人ひとりの健康管理をサポートするとともに、年間30兆円といわれ、国の財政を圧迫する医療費を、この小さな歩数計で減らすキッカケとなるかもしれない。



## 企業概要

- 創立 2003年5月
- 代表 水野節郎
- 資本金 4,825万円
- 事業内容 組み込み機器のハードウェア&ソフトウェアの企画・設計・開発・製造・販売
- 従業員数 42名
- 所在地 盛岡市上堂3丁目8-44  
電話 019-648-8566

URL <http://www.erii.co.jp>

今月の表紙／今春入社した期待の新人。左から、梁川翼さん（岩手県立大学大学院・福島県）、金澤真徳さん（一関工業高等専門学校・奥州市水沢）、遠藤卓弥さん（岩手大学・八幡平市）、浅沼諒さん（岩手県立大学・盛岡市）。まだ研修期間中で組み込みソフト開発の面白さを実感するのはこれから。モニターに向かい黙々と作業する毎日だが、先輩社員のアドバイスと仕事を離れての軽い話題が気持ちを和ませてくれる。

水野節郎代表取締役

昭和30年生まれ。東北工業大学で電子工学を学び、横浜のソフト開発会社を経てアルプス電気盛岡工場に勤務、プリンター開発などに携わった。同工場の撤退を機に起業。「新卒者を育てられないようでは会社を設立した意味がない」と次代を担う若い技術者の育成に心を砕く。今夏行われるETロボコン<sup>®</sup>には新人教育の一環として会社から2チーム出場させる。「いわて組み込みシステムコンソーシアム」（代表：曾我正和岩手県立大学教授）の副代表も務める。

※社団法人組み込みシステム技術協会主催

組み込みソフトウェア分野における技術教育をテーマとしたイベント。同一のハードウェアに分析・設計したソフトウェアを搭載し、決められたコースを自律走行して競う

## 平成20年度

# サービス利用満足度調査結果(速報値)

### 【調査目的】

センターが提供したサービスへの満足度及びその理由等の調査を行い、その結果をサービス内容、サービス提供方法の改善に生かすことを目的とする。

### 【調査概要】

- 実施時期** 平成21年4月22日～5月12日  
※集団あつせん会議、起業家育成塾等は実施時に調査。
- 対象者** 平成20年度内に当センターの提供するサービスをご利用いただいた企業・個人等
- 項目** サービス利用の満足度(5段階)及びその理由、センターに対する要望・意見

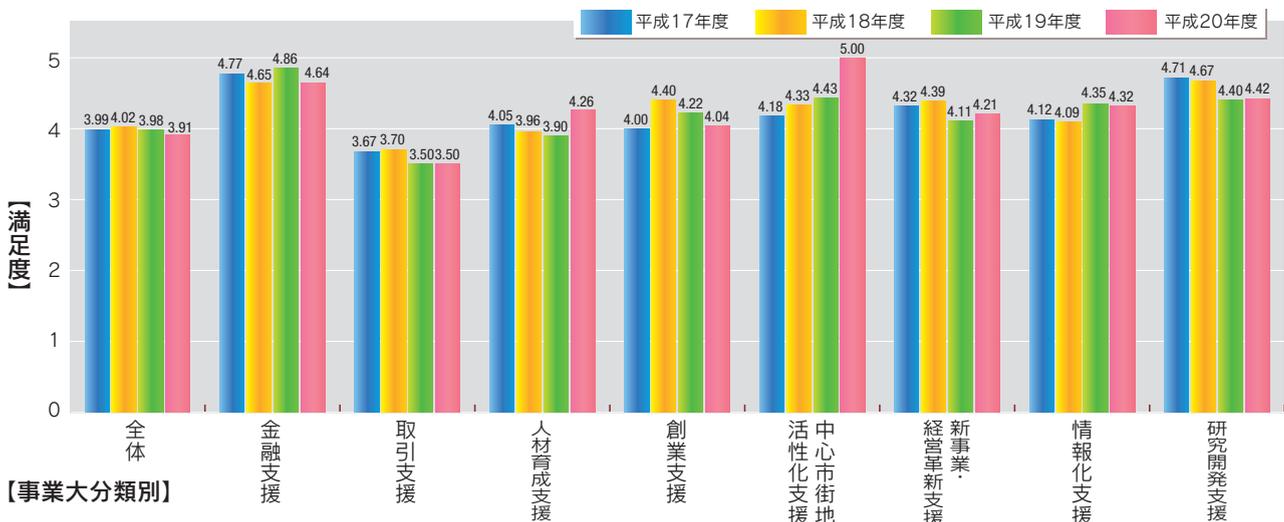
### 【調査結果】

総合満足度 **3.91** (満点5.00 19年度は3.98)

回答率 **52.7** %  
[966/1,833] (19年度は47.1% [720/1,530])

満足度算出方法 満足(ウエイト:5)から不満(ウエイト:1)までの回答の加重平均により算出

## サービス利用満足度調査結果



## 事業大分類の構成事業

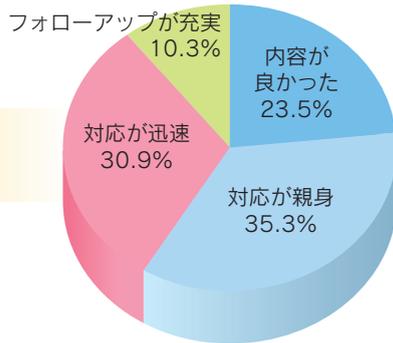
／ は、回答数/センター利用者数 ( )内%は、全体に占める構成比

<b>金融支援</b> 42/77 (4.3%/4.2%) 設備貸与等事業 資金貸付事業	<b>新事業支援・経営革新支援</b> 94/196 (9.7%/10.7%) 総合相談 専門家派遣事業 いわて希望ファンド 結いの市試験販売 ※ 展示会出展支援
<b>取引支援</b> 452/1074 (46.8%/58.6%) 取引あつせん(発注・受注) 集団あつせん会議(発注・受注) ※ 北東北3県合同商談会(発注・受注) ※ 盛岡商談会(発注・受注) ※ 自動車関連産業創出推進支援事業 青森・秋田・岩手交流会	<b>情報化支援</b> 22/45 (2.3%/2.5%) 図書・ビデオ等貸出
<b>人材育成支援</b> 286/351 (29.6%/19.1%) いわてものづくりアカデミー ※ 若者・中小企業ネットワーク構築事業 ※	<b>研究開発支援</b> 19/29 (2.0%/1.6%) 研究開発支援
<b>創業支援</b> 48/58 (5.0%/3.2%) 起業家育成塾 ※ いわてビジネスプランクラブJ	
<b>中心市街地活性化支援</b> 3/3 (0.3%/0.2%) 中心市街地活性化推進事業	

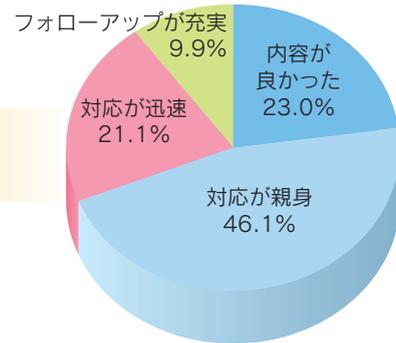
※印は、開催時等に調査

## 満足の原因：事業大分類別

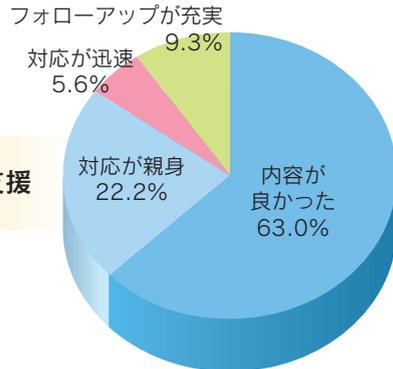
### 金融



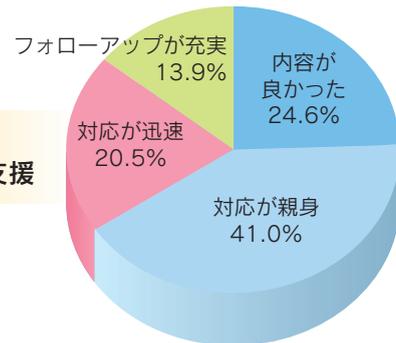
### 取引支援



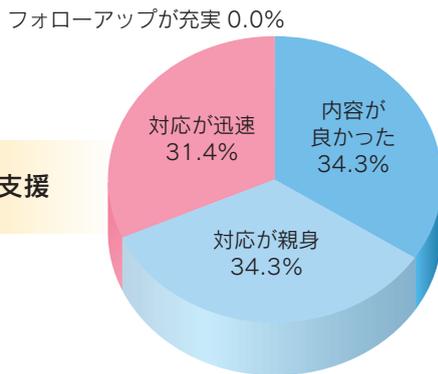
### 人材育成支援



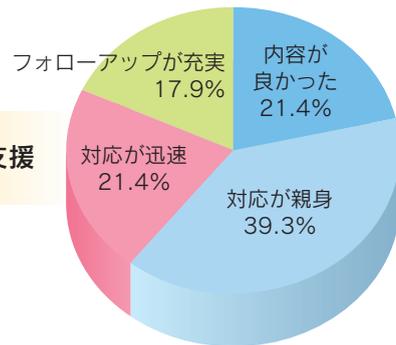
### 新事業・経営革新支援



### 情報化支援



### 研究開発支援



## 分析結果

- ・昨年度より満足度の向上したものは事業大分類別で「人材育成支援」「新事業・経営革新支援」及び「中心市街地活性化支援」。逆に低下したものは、「金融支援」及び「創業支援」である。「取引支援」、「情報化支援」及び「研究開発支援」はほぼ変わらなかった。
- ・全体の満足度は昨年度の3.98から3.91と低下傾向にある。この背景には、次のような要因が考えられる。
  - ①世界的な経済不況を反映し、センターのサービスの大宗を占める取引支援への期待が高まっている。センターでは、例年よりも商談会の開催回数を増やすなど取引支援に努めたが、受注希望企業に対し十分な発注企業が確保し難い状態であったこと。
  - ②好景気では新規創業相談が少なく、しかもビジネスプランが明確である案件が比較的多いのに対し、不景気には金融や新規創業の相談件数が多くなり易く、それぞれの案件は玉石混じりとなる傾向があること。

## 今後の取組み

- ・引き続き発注開拓に力を入れて取り組み、一社でも多くの取引成約に努める。
- ・事業毎に、寄せられたご意見・ご要望をもとに相談対応やサービスの中身を検証し、満足度向上に努める。
  - 例) 集中的に人員を投入し重点的に発注開拓に取り組む。
  - 例) サービス向上のために苦情窓口を設置し、サービス改善への意見・要望を吸い上げるとともに、個別事業のサービス提供方法について、宿泊研修を通い研修とするなど、可能な工夫に取り組んで参る。

お問い合わせ先 総合支援グループ

TEL. 019-631-3826

FAX. 019-631-3830

皆様からいただいた意見とそれに対するセンターとしての回答・対応策等、詳細につきましては今後当センターのホームページにも掲載してまいります。

URL <http://www.joho-iwate.or.jp/ci/>

相談・支援に  
かかる費用は

# あなたの経営課題を 解決します!

**無料**

地域力連携拠点事業をご利用ください。

**【地域力連携拠点事業】** 経済産業省が先進的な経営支援を行う中小企業支援機関等を地域力連携拠点に選定し、優秀な支援者である「応援コーディネーター」を中心に、中小企業の皆様が抱える「経営力の向上」、「創業・再チャレンジ」、「事業承継」等のさまざまな課題に応じて、その具体的な解決をきめ細かに支援していくものです。岩手県では、(財)いわて産業振興センター、岩手県商工会連合会、盛岡商工会議所、奥州商工会議所、岩手県中小企業団体中央会、(財)釜石・大槌地域産業育成センターの6機関が採択され事業を実施しています。

**ケース1**

新商品の開発や  
新事業活動で  
経営を向上させたい

**ケース2**

ITを使った  
会社経営で経営力を  
アップさせたい

**ケース3**

新しい販路を  
拡大して経営を  
安定させたい

補助金・融資・保証などの  
多様な支援策の活用を、  
各種専門家がアドバイス

**ケース4**

創業したい  
再チャレンジしたい



おまかせ  
ください!

**ステップ1**

まず相談してください!

各拠点の応援コーディネーター、  
窓口専門家がお応えします。

**ステップ2**

自社の強み、  
弱みを知しましょう!

コーディネーターが貴社の強みと  
課題を診断し、解決に向けた道筋  
を分かりやすく説明します。

**ステップ3**

課題を克服し、  
ステップアップ!

課題に応じて、コーディネーター  
や専門家が支援策につなげて  
いきます。

お問い合わせ・相談は、地域力連携拠点まで

お問い合わせ・相談は、下記の地域力連携拠点までお願いします。相談は随時受け付けておりますのでお気軽にご相談ください。

地域力連携拠点	電話番号	FAX	E-mail
(財)いわて産業振興センター	019-631-3826	019-631-3830	joho@joho-iwate.or.jp
岩手県商工会連合会	019-622-4165	019-654-3363	kyoten@shokokai.com
盛岡商工会議所	019-624-5880	019-654-1588	daihyo@ccimorioka.or.jp
奥州商工会議所	0197-24-3141	0197-24-3148	info@mizusawacci.com
岩手県中小企業団体中央会	019-624-1363	019-624-1266	webmaster@ginga.or.jp
(財)釜石・大槌地域産業育成センター	0193-26-7555	0193-56-7557	info@ikusei.or.jp

岩手の地域力連携拠点ポータルサイト URL : <http://www.joho-iwate.or.jp/kyotenhp/>

地域力連携拠点事業 相談申込書 (ご記入のうえファクシミリまたはE-mailで送付ください)

事業所名			担当者名	
住所	〒	E-mail		
電話番号	F A X			
相談内容 [該当項目に○印]	① ITの活用	② 知的財産の活用	③ 新商品の開発など新事業活動(経営革新)	
	④ 地域資源活用	⑤ 農工商等連携	⑥ 創業・起業	⑦ 再チャレンジ
	⑨ その他 ( )		⑧ 事業承継	

7ページの活用例を参考にしてください

# 地域力連携拠点事業の活用例

こんなことが実現しています。

昨年度から始まった地域力連携拠点事業では147社、のべ241件のご相談を受けております。その中から支援内容の概要を一部ご紹介します。

## 経営革新計画策定支援

経営革新計画策定のアドバイスを行い、うち7企業が県の承認を受けております。うち4社はその後「いわて希望ファンド」経営革新枠に応募、採択されました。

## 地域資源活用

11社から相談があり、相談内容に応じて、国の地域資源活用プログラム応募支援（1件採択）、「いわて希望ファンド」地域資源活用枠応募支援（1件採択）、販路拡大支援（4件）を行いました。

## 農商工連携

14社から相談があり、うち4社は国の農商工連携、いわて農商工連携ファンドへの応募に向けて引き続き支援を受けております。

## 販路拡大支援

新商品の販路拡大支援については、地域力連携拠点の応援コーディネーター等の人脈を活かして販路を紹介し成約例をみております。また、一部ですがリサーチ会社に市場可能性調査を委託し、調査結果の情報提供もしております。

## ITの活用

在庫管理システムを自社で構築したいとの相談を受けて専門家を派遣した結果、相談者が簡易なデータベースソフトAccessを使ったシステムを構築し運用を始めることができました。

## 創業支援

創業希望者の相談を受け、開業に結び付けた例もあります。一方で、ビジネスモデルや資金計画に問題を発見されて無理な開業を回避できた例もあります。

## その他

共同店舗開設計画についてマーケティングの専門家を派遣し、計画策定の支援を行い、来年めでたくオープンにこぎつけた例があります。

また、人事制度と社員教育の相談があり、専門家を派遣しました。現在、相談にきた会社では新たな人事制度策定に取り組んでいます。

問い合わせ

総合支援グループ TEL 019-631-3826

E-mail joho@joho-iwate.or.jp

取引上の困りごと、なんでもご相談ください。

# 下請かけこみ寺

弁護士無料相談実施中！

弁護士無料相談を実施しています。お気軽にご相談ください。

かけこみ寺・移動相談所（6月・7月の開催予定）

【釜石会場】 釜石・大槌地域産業育成センター  
6月9日（火） 13:00～15:00

【大船渡会場】 大船渡商工会議所  
6月10日（水） 10:00～12:00

【二戸会場】 二戸広域観光物産センターなにやーと3階  
7月22日（水） 13:00～15:00

【久慈会場】 久慈商工会議所  
7月23日（木） 10:00～12:00



下請かけこみ寺・弁護士無料相談の問い合わせ先

育成支援グループ 担当/伊藤・村上 TEL.019-631-3822 E-mail:joho@joho-iwate.or.jp

# 平成21年度 地域見本市等出展費用助成事業

(財)いわて産業振興センターでは、関東地方などで開催される見本市、展示会等に出席を希望する県内企業に対し、出展料（小間代）の一部または全部を助成する「地域見本市等出展費用助成事業」を実施することといたしました。貴社の販路開拓の一助とするため、積極的にご活用されますようお願いいたします。

## 助成対象等

1 企業からの申し出があったもので、出展効果が大きいと当センターが判断するものとします。

## 2 助成対象者

県内に事業拠点を置く中小企業であって、次の条件を全て満たしている事を条件とします。

- (1) 助成を受けようとする見本市等への出展物が、製造業である場合は県内下請企業で製造された部品、完成品及び技術開発製品であり、全国販売（取引）展開の可能性が高いこと。  
また食品加工業である場合は、県内で加工し、全国販売展開の可能性が高い商品・加工品であること。
- (2) 助成を受けようとする見本市等への出展に際し、他機関等の助成を受けていないこと。
- (3) 助成を受けようとする見本市等が助成申請以降に開催されるものであり、かつ、申請の時点で主催者に出展料を支払っていないこと。
- (4) 助成を受けようとする見本市等が平成22年3月20日までに終了するものであること。

## 3 助成対象経費及び金額

- (1) 助成の対象とする経費は見本市等の主催者が定める出展料（小間代）とします。
- (2) 同一企業に対する限度額は200,000円とし、金額の範囲内で複数の見本市等または複数小間の助成を認めます。
- (3) 本年度の助成対象企業は5社程度を予定しています。

## 4 申込方法

「出展費用助成申請書\*」に助成を受けようとする見本市等の「出展案内」及び「出展申込書」の写しを添付して当センターに提出してください。

\*申請書が必要な方は、下記に連絡をいただくか、当センターのホームページ「お知らせ」の「地域見本市等出展費用助成事業募集中」のサイトからダウンロードをお願いいたします。

問い合わせ・申し込み先 (財)いわて産業振興センター  
〒020-0045 盛岡市飯岡新田3-35-2  
育成支援グループ 担当/村上  
TEL 019-631-3822 FAX 019-631-3830



スタッフからひと言

ソフトウェア開発は「ものづくり」

育成支援グループ  
三上 敏広

育成支援グループでの私の業務は受発注の取引支援です。主に関東・東北地区の企業様から発注案件をいただき、県内ものづくり企業様にあっせんすることが一番の仕事です。4年前からソフトウェア開発企業様への取引支援も行っております。今月号で特集をさせていただきます(株)イーアールアイ様は組込み機器のソフトウェア&ハードウェアの企画・設計・開発・製造・販売を行っている企業様です。組込み機器等のソフトウェア開発はものづくり企業様と密接に係わっており、重要な産業であるとともにソフトウェア開発は「ものづくり」として認識しております。

当センターは取引支援の他にも、産学官による研究会活動の一つである「組込み技術研究会」の事務局として組込み技術の普及・高度化、人材育成等に取り組んでおります。

これからも県内ものづくり企業様の取引拡大のため支援をまいります。ご意見・ご要望がありましたらお聞かせください。